

平成29年度病害虫発生予報第5号

平成29年 8月 1日
愛知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	やや少ない	県全域	7月下旬の葉いもちの発生量は やや少ない 穂いもち抵抗性品種の作付けが 多い	－ －
	紋枯病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	白葉枯病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ニカメイガ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数はやや少ない	± ± －
	セジロウンカ	少ない	県全域	7月下旬の発生量は少ない 予察灯における誘殺数はやや少 ない	－ －
	トビイロウン カ	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い	＋
	ツマグロヨコ バイ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	斑点米カメム シ類	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数はやや多 い	＋ ＋
	イチモンジセ セリ (イネツ トムシ)	平年並	県全域	7月下旬の被害株率は平年並	±
	フタオビコヤ ガ (イネアオ ムシ)	少ない	県全域	7月下旬の被害株率は低い 予察灯における誘殺数はやや少 ない	－ －
	コブノメイガ	平年並	県全域	7月下旬の被害株率は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± +
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± +

・防除対策

〔イネ・トビイロウンカ〕

ほ場内をよく見回り、発生を確認した場合は、速やかにスタークル／アルバリン顆粒水溶剤などで防除しましょう。なお、発生状況等の詳細は、本日発表の「ウンカ情報第3号」を参照してください。

〔イネ・斑点米カメムシ類〕

7月14日発表の「平成29年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

〔ダイズ・ハスモンヨトウ〕

本日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号（ダイズ）」を参照してください。

〔ダイズ・オオタバコガ〕

本日発表の「オオタバコガ情報第1号（ダイズ・キャベツ・キク）」を参照してください。

・留意事項

セジロウンカの飛来・発生状況については、本日発表の「ウンカ情報第3号」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の孢子形成量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ミカンハダニ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	チャノキイロアザミウマ	多い	県全域	7月下旬のイヌマキにおける発生量は多い 粘着トラップにおける誘殺数は多い	± +
ナシ	うどんこ病	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない	－
	ハダニ類	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない	－
	ナシヒメシシクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
モモ	せん孔細菌病	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない 8月の降水量はほぼ平年並	－ ±
	モモハモグリガ	やや少ない	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は少ない 7月下旬の被害葉率はやや低い	－ －
カキ	うどんこ病	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない	－
	カキノヘタムシガ	平年並	県全域	第1世代幼虫による被害果率は平年並	±
	コナカイガラムシ類	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	やや少ない	県全域	7月下旬のヒノキにおける生息頭数は少ない ヒノキからの離脱時期は9月上旬以降	－ －

・防除対策

[ウンシュウミカン・チャノキイロアザミウマ]

本日発表の「平成29年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

・留意事項

ナシ黒星病が発生しているほ場では、次作のため秋期防除の準備をしましょう。

果樹カメムシ類は、越冬世代から新世代成虫へ世代交代の時期に入っています。詳しくは、本日発表の「果樹カメムシ類情報第2号」を参照してください。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	オオタバコガ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	＋ ＋
	シロイチモジヨトウ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は多い 8月の気温は高い	＋ ＋
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± ＋

・防除対策

[キャベツ・オオタバコガ]

本日発表の「オオタバコガ情報第1号（ダイズ・キャベツ・キク）」を参照してください。

[キャベツ・シロイチモジヨトウ]

幼虫を確認したら直ちにコテツフロアブルなどで防除しましょう。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

キャベツはアニキ乳剤やフェニックス顆粒水和剤など、野菜類はフローバックDFなどで防除しましょう。

・留意事項

キャベツのコナガは、フェロモントラップにおける誘殺数がやや多い状況なので、今秋作の育苗においては特に注意が必要です。ほ場をよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。また、ハイマダラノメイガは、今後、発生に好適な気象条件が見込まれるため、注意が必要です。育苗期には防虫ネットなどで覆い、成虫の侵入を防ぐとともに、薬剤防除を徹底しましょう。

トマトでは、コナジラミ類の発生が増加する時期です。タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（病原ウイルス：TYLCV）やコナジラミ類が媒介するトマト黄化病（病原ウイルス：ToCV）の感染を防ぐため、育苗時、定植時にはコナジラミ類が寄生していないか確かめるとともに、コナジラミ類に効果のある粒剤を施用しましょう。また、侵入防止対策として、施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置しましょう。

イチゴの育苗ほでハダニ類の発生量が多い地域があります。育苗ほでは、気門封鎖型農薬などで防除しましょう。本ほにハダニ類を持ち込まないように、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。成虫と幼虫の両方に効果のあるアファーム乳剤や、幼虫に効果のあるモベントフロアブルのかん注処理と成虫に効果が期待されるコロマイト水和剤や気門封鎖型農薬などを組み合わせて用いると良いでしょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	オオタバコガ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	+
	ハダニ類	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±

・防除対策

〔キク（露地）・オオタバコガ〕

本日発表の「オオタバコガ情報第1号（ダイズ・キャベツ・キク）」を参照してください。

・留意事項

アブラムシ類の発生量はやや多い状況です。発生状況を確認し、発生ほ場では、系統の異なる薬剤でローテーション防除しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台7月27日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：30% 高い：50%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%